

最も古いものとせられて居つたので、その以前の言語は如何なるものであつたかは、殆んど知り得なかつたのである、然るに一八九〇年に於けるフィンランドのハイケル (Heikel) 氏の外蒙古オルコン河地方の探險、ついではその翌一八九一年に於ける露西亞のラドロフ (Radloff) 博士の探險等に據つて、前に一寸述べた突厥の闕特勤の碑文をはじめその兄默棘連可汗、宰相噉欲谷、回鶻の毗伽可汗等の紀功碑文、その他多くの遺文を得たのであつたが、此等は隋唐時代のトルコ語なる突厥語、もしくはキルギス語などで記されてあつたので、少くとも從來よりは五六百年も以前に溯つた時代のトルコ語なるものが明らかになり、廣い意味からいへば、アルタイ語の文獻をして、六七世紀の頃まで溯らしむることとなり、言語學の上に於ても大なる貢獻をなすことが出来た、尤も此の突厥語を寫すに用ゐられた突厥文字或はエニセイ文字と稱せらるゝものが既に全くの新事實で、支那の記録には突厥には文字無しと記して居るものもある様な譯であるから、初めの中はこれを読むことが出来ず、或一種の模様過ぎないと迄いふた學者もあつたのである、丁抹の學者トムセン (Thomsen) 氏が一八九四年に初めて之を読む事を得、ラドロフ氏なども熱心に研究をすゝめて遂に殆んど全く解明することを得たのである。然るに別に能く知られて居る新疆省地方の探險の結果、更にまた多くの回鶻語の文書を得ることが出来て益々古代トルコ語なるものは明らかにせらるゝことになり、アルタイ語の比較研究に資し得るに至つたのである。

(ロ) 三種の印度歐羅巴語の發見。

古代アルタイ語の發見にもまして興味を存する事實は、新疆省地方の探險によつて、從來知られなかつた三種の